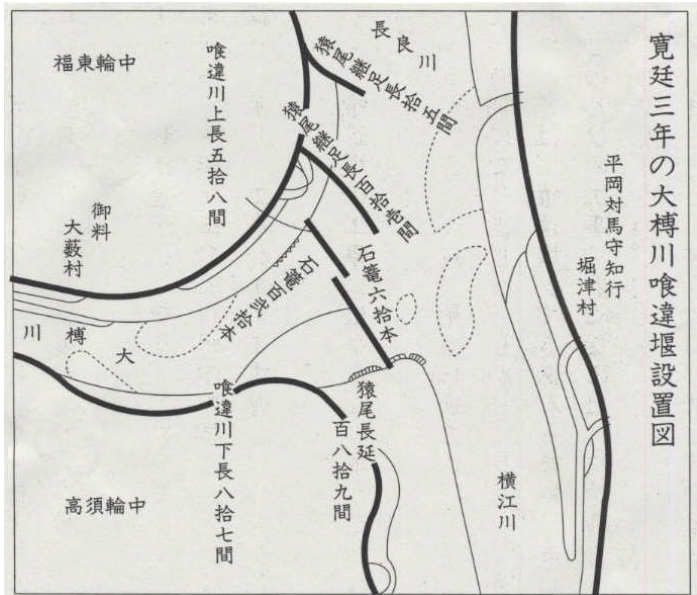


# 大藪洗堰跡

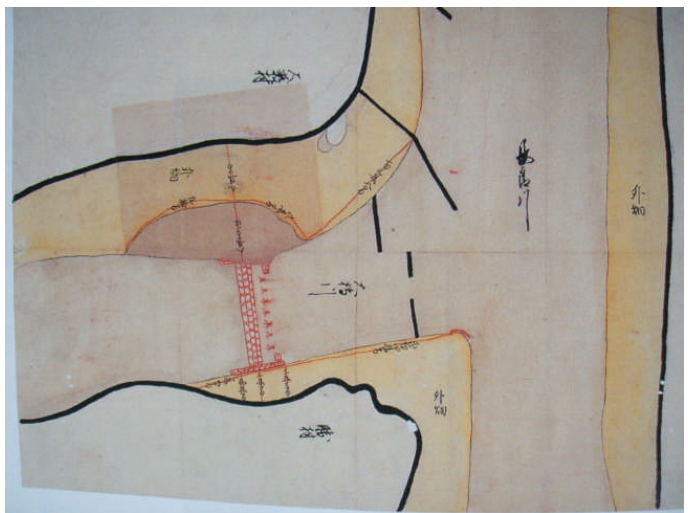
- 所在 輪之内町大藪字新河原2865の4
- 指定年月日 県指定 史跡 昭和34年3月10日
- 時代 江戸時代

大樽川はもともと長良川の水行をよくするために、長良川と揖斐川を結んだ人工川であるが、両川の川底の差が八尺もあったため、洪水ごとに、長良川の水が大樽川に奔流して、福束・高須の両輪中に氾濫した。また、江戸時代に入ると、新田開発が進められ、今まで遊水池となっていた土地が減り、洪水が頻繁に起こるようになった。そのため、福束輪中の村々が大藪村と勝村との間に、石堰を築き、締め切る工事を願い出たところ、寛延三年（1750）10月、大樽川喰違堰の設置工事の許可があり、翌年1月から農民の手による工事が行われ完成させた。（喰違堰）



喰違堰は、大藪村側から長さ58間、勝村から87間の石堰をそれぞれ常水面より、一尺八寸高く築いたものである。

しかし、大樽川喰違堰を設置しても規模が小さく水の勢いを押さえることができず、十分な効果が得られなかったため、宝暦三年（1753）12月25日、幕府は大規模な治水工事を薩摩藩にお手伝い普請として命じたのであった。薩摩藩による大樽川の築堰は、寛延四年（1751）に関係輪中の自普請で築いた大樽川喰違堰から下流48間の地点に 堤の長さ98間、石堰高さ4尺、堤敷23間の青竹造りの蛇かご石積みの洗堰である。この洗堰は長良川の水かさか二合までは石堰で遮られるが、それ以上になると水は堰を超えて大樽川に流れ込んで、両川の水勢いを緩和する設計であった。宝暦4年11月ばに着工して、同5年3月28日に完成した。（薩摩洗堰）



しかし、この洗堰完成後半年とたたない宝暦5年5月28、9日頃の出水で洗堰西岸大藪村方外畑が長さ九十間、幅五十間ほど決壊流失し、新しい河道ができた。そこで再度調査が行われ、自普請で宝暦七年7月から新たに薩摩堰より上流110間余のところ

宝暦五年 大樽川大藪村方外畑欠所絵図

のところに長さ78間の洗堰を築造する

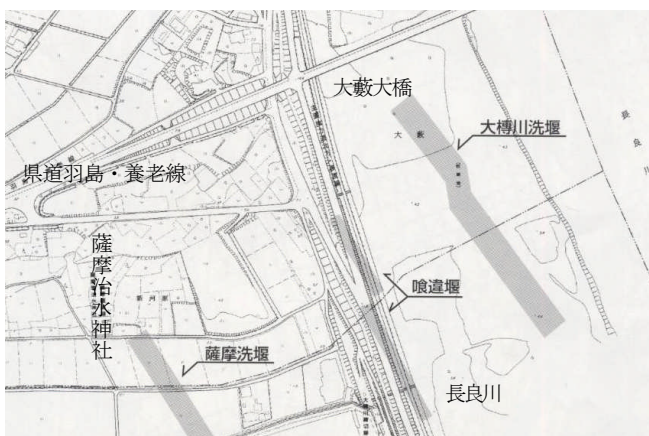
工事をはじめ、翌8年3月に完成した。以後明治32年大樽川の締切堤の完成するまで約150年間、長良・揖斐両川の制水の役割を果たし、福東・高須・多芸輪中を水害から守った。

おくれがわあらいげき  
(大樽川洗堰)

なお、寛永8年に完成した大樽川洗堰は平成10年より埋蔵文化財包蔵地に追加された。

現在大樽川は廃川となり、川底は払下げられて民有地となって開墾され、当時の洗堰は田面から没して、その面影を見ることもできないが、今も三、四尺掘れば往年の石積みを見ることができる。

その場所に「薩摩堰遺跡」の記念碑が建てられて、その偉功に感謝の意を表している。



平成10年宝暦治水サミット資料より



宝暦5年完成薩摩洗堰（洗堰の試掘）平成9年4月



宝暦8年完成大樽川洗堰（洗堰の試掘）水うけ部



大樽川洗堰（宝暦8年3月～明治32年）